

【福岡市】橋梁の劣化状況の確認(橋梁劣化状況の効率的な点検の実現)

課題の背景

福岡市内には約 2,000 の道路橋が存在しており、これら全てについて、5年に1回の頻度で点検を行うことが法律で定められている。福岡市ではこれらの橋梁点検を建設コンサルタントによる近接目視（部材の変状を評価可能な距離まで近接して目視する）点検により実施しているため、人的コスト及び費用コストの高さが課題となっている。

加えて、道路橋の近接目視点検を行う際は、一定時間の交通規制を実施する必要が生じる場合もあり、周辺交通への影響の低減も課題である。

こうした中、平成 31 年 2 月に国の橋梁点検要領が改訂されたことにより、点検を実施する者が近接目視と同等の技術と判断すれば代替技術の使用が可能となったことから、従来の近接目視点検に代わる効率的な橋梁点検支援技術を求めるもの。

求められる要件(機能要求・関連基準等)

以下に示す要件のいずれか又は全てを満たすアイデア・技術等の提案を求める。

- 点検の精緻化、短時間化、低費用化が実現できること。
(現状の 1 橋あたり点検費用は約 20 万円：幅員 12m、橋長 15m程度の場合)
- 可能な限り交通規制を伴わず、実施できるような点検方法であること。
- 交通規制を要する場合においても周辺交通への影響が小さいこと。
- 国の点検支援技術性能カタログ
(https://www.mlit.go.jp/road/sisaku/yobohozen/tenken/yobo5_2.pdf) に掲載されている技術、又は同カタログに掲載されていない新たな技術を利用した提案であること。